

江古田小校長室便り 「温故創新」

H29 (2017)・1222 NO63

校長 伊波喜一

残すもの 残さなくてはならぬもの 不易は何か よく考えん

明年30年度の教育課程について、その骨子が示された。生命を大切にすることを目的に、道徳・外国語・がん教育・保幼少連携及び小中連携教育・主催者教育（模擬選挙）など、新しい思考でとらえなくてはならない課題である。文科省が「生きる力を育む」ことを目的として示した時には、正直、違和感を持った。生きる力という概念は、個人に資することであるからだ。しかし、核や戦争、貧困など、一個人では解決できない世界の実情を見聞きするにつれ、一人一人のより良い生き方を国がバックアップすることで、私達の未来を変えていくことが出来ると、考えが変わった。主催者教育などは、私達の生活を変えていく政治について、中学生達が曇りない目と頭で考えるきっかけとなろう。塩野七生氏が「民主主義という政体ほど、維持するのが難しいものはない。が、民主主義ほど良いものはない。それは、自由を抑圧しないからだ」（趣意）と言っている。日本には自由がある。自由に生きられることほど、有難いものはない。それは、不断の目に見えぬ努力に支えられているのだ。